

英国人は車好き？ ‘Back seat drivers and petrosexuals’

現在、ロンドンからグラスゴーまでは車で6時間程かかります。私が子供だったころ、両親の運転では12時間はかかりました。そそっかしく、想像力に富んだ運転をする彼らはいつも道に迷っていたのです。

旅行好きであった我が家では、その都度、違ったルートを選び、また私の記憶が正しければ、車も違っていました。両親は、車も頻繁に変えていたのです。(その頻度は日本の首相が変わるのと同じぐらいだったかな。)

両親は英国車をよく選んでいました。私が覚えているのは、Daimler や Mini、英国のスポーツカーMGB など。仏車の2CVにも乗っていたことがあり、ヨーロッパを旅行したときに、私は彼らの大切な仏車2CVをガレージのドアにぶつけてしまいました。

両親は、多くの英国人同様に、車を家族の一員のように大切にしました。父の愛するDaimlerも例外ではありません。愛情のこもった手厚いケアが必要なほど、年代もので古びた車でしたが、ご近所に譲り渡したときは、まるで‘bereavement’ (親友・近親者との死別) のようでした。

英国人は一般的に、注意深く、思慮深いドライバーとして知られています。交通ルールを順守し、アグレッシブな運転やクラクションの鳴らしすぎを非難します。ただ、車についてはかなり失礼かもしれません。英国BBC放送の自動車情報番組 ‘[Top Gear](#)’ は、‘motor mouth’ (早口で、次から次へと言葉が飛び出す人) な司会者 Jeremy Clarksonの気に入らない車種をこき下ろすコメントが有名で、熱狂的なファンを作りだし、人気番組になりました。

運転スタイルにも、英国人はかなり手厳しいかもしれません。英国にはペーパードライバーという表現はありませんが、めったに車に乗らない人が運転すると、あまりにも慎重になりすぎて危険だという ‘Sunday driver’ という表現があります。

その他、車にまつわる単語やフレーズといえば：

petrosexual : 男女間に運転スタイルや車の好みの差はほとんどないという最新データを反映した新語 (ただ、女性は車に名前をつける傾向があるようで、人気のある名前は‘Fifi’。)

back seat driver : 文字通りには、ドライバーをコーチしながら後部座席に座る人ですが、比喩的には、主導権を握る人を意味するフレーズ - 例えば ‘Mr Tatoyama is the boss but his wife is a back seat driver’.

英国に旅行されるとき、‘Petrolheads’ (車好き) の方にオススメなのは、ニューフォレストのビューリーにある、[国立自動車博物館](#)。ビンテージカーからボンドカーまで、約250の新旧の素晴らしいコレクションが美しくのどかな田園風景の中で楽しめます。

また、7月9日から始まるモータースポーツのF1レース[the British Grand Prix](#)も注目ですね。

ただ、私は、シルバーストーン・サーキットで開催される British Grand Prix にはあまり興味がなく、車も持っていません。スコットランド人特有の取り留めのない話か、仏車2CVの苦い経験によるものかも。私はテストも受けたことがなく、スタート位置にさえ立ったことのない paperless non-driver なのです。

そんな私ですが、両親とは別の方法で、半日かからずにロンドンからグラスゴーまでたどり着くことができます。ヒースローから飛行機で！